

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第47週(11月17日～11月23日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	45週	46週	47週	47週	47週
インフルエンザ	▲11.67	▲11.00	▲22.00	●35.84	51.12
新型コロナウイルス感染症	1.67	0.33	0	0.75	1.64
RSウイルス感染症	2.50	7.00	2.50	0.29	0.73
咽頭結膜熱	●3.00	●1.50	●6.50	0.90	0.28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	0	0.50	1.61	2.38
感染性胃腸炎	10.00	12.50	10.50	2.65	4.01
水痘	0	0	0	0.06	0.30
手足口病	0	0	0	0.39	0.12
伝染性紅斑	●2.50	●3.00	●3.00	●1.68	0.65
突発性発疹	0	0.50	1.00	0.39	0.22
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0.06
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0.04
急性出血性結膜炎				0.25	0.01
流行性角結膜炎				1.63	0.76
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.01
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
マイコプラズマ肺炎	0	0	1.00	0.83	1.30
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0.01

急性呼吸器感染症 (ARI)	44.33	42.67	61.33	96.33	103.38
----------------	-------	-------	-------	-------	--------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 インフルエンザ流行警報が発表されました。

長崎県の第47週の患者報告数は1,828人で、定点当たり報告数は35.84となりました。注意報レベル基準値「30.0」を上回ったことから、県地域保健推進課は、11月27日にインフルエンザ流行警報を発表しました。地区別にみると、長崎地区(79.00)、佐世保地区(44.57)、県央地区(30.75)で警報レベル、西彼地区(23.60)、県北地区(22.00)、県南地区(19.20)、上五島地区(19.00)、壱岐地区(12.33)で注意報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満(59%)、10代(25%)が多く、小中学校の臨時休業も前週より増加しています。警報が発表され、今後さらなる患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【トピックス】 感染性胃腸炎に注意しましょう。

長崎県の第47週の報告数は82人で、定点当たりの報告数は2.65でした。地区別にみると、県北地区(10.50)は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【トピックス】 伝染性紅斑に注意しましょう。

長崎県の第47週の報告数は52人で定点当たり報告数は1.68となり、16週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中5保健所で警報レベルの報告数となっています。
本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気で、約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)、体や手足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 12月1日は世界エイズデーです。

世界保健機関(WHO)は、エイズに関する正しい知識等について啓発活動を推進し、エイズ蔓延防止および患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図ることを目的として、12月1日を「世界エイズデー」と定めています。
後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS, エイズ)は、性的接触、母子感染、血液を介した感染経路によるヒト免疫不全ウイルス(HIV)の感染によって生じ、適切な治療が施されない場合、重篤な全身性免疫不全により日和見感染症等を引き起こす状態です。近年は治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を開始すれば、免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となっています。
早期発見、早期治療により発症を防ぐためには、検査を受けることが重要です。県内の保健所において、HIVの個別相談、無料匿名の検査を実施しています。それぞれ事前の連絡、予約が必要となりますので、検査、相談をご希望される場合は、保健所にご連絡ください。